様式第3号

# 自己評価報告書（最終報告）

| 報告者 | 芸術系コース（美術）<br>／鈴木　久人 |
|---|---|

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ．学長の定める重点目標

Ⅰ－1．教育大学教員としての授業実践

本学の目的は，豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し，学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには，教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が，学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは，教員養成大学の教員として，本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか，これまでの取り組み状況を総括し，具体的に示して欲しい。

**1．目標・計画**

絵画制作，絵画材料，現代美術，日本の伝統美術等の研究の成果から学部，大学院の教科専門の授業実践をとおして本教科の専門内容の能力習得とあわせて，習得したことがどのように教育現場での表現，鑑賞教育に展開できるかを積極的に取り上げ，学生の指導力，教材開発力を高めるよう努めて来た。その上に立ち，教育実践フィールド研究（大学院），初等中等教科教育実践（学部）等の場で教科専門の授業内容が学校現場での実践とどのように係わるのかを具体的に考察していきたい。

**2．点検・評価**

中間報告でも述べたように教科専門の授業実践をとおして本教科の専門内容の能力習得とあわせて，習得したことがどのように教育現場で展開できるかを積極的に取り上げている。主に絵画制作，現代美術の研究から得た知見等も参考にして，実際に予想される現場での指導・助言の方法や教材開発の方法について取り上げた。具体的授業名は学部では素描，絵画I，絵画II,絵画材料研究，初等中等教科教育実践II，大学院では絵画制作研究，油画制作演習，課題研究等である。

Ⅱ．分野別

Ⅱ－1．教育・学生生活支援

**1．目標・計画**

授業において積極的にデジタル機器を活用し，授業改善に努める。また基礎的能力を高め，併せて応用力を身につけるための教材開発をおこなう。
実技，演習科目では複数の提出物や出席状況など総合的な成績評価を確立する。
制作研究・生活を支援するためオフィスアワー以外での学生への声かけを積極的に行いう。学生が意欲的に制作研究に取り組むことができるよう，環境整備に努める。
また実技面など教科専門での教員採用試験の支援を積極的におこなう。

**２．点検・評価**

中間報告でも述べたように授業において積極的にデジタル機器を活用し，授業改善に努めた。また基礎的能力を高め，併せて応用力を身につけるための教材開発をおこなった。
実技，演習科目では複数の提出物や出席状況など総合的な成績評価を心がけ，すべての担当授業で時間を取り，履修者に説明をしている。特にただ単に成果物の善し悪しだけを見るのではなく，個々の学生がその課題解決のためどのように取り組んでいるかも評価の対象にする事を強調した。
制作研究・生活を支援するためオフィスアワー以外での学生への声かけを積極的に行い，学生が意欲的に制作研究に取り組むことができるよう，環境整備に努めた。また大学院の課題研究I,IIを他の教員とチームティーチング形式で行うことで内容に深みを持たせることができた。
教員採用試験の中の実技試験問題の分析をおこない，指導，助言にあたった。具体的例としては水彩画実技試験の対策として数多くの作品添削を行い，良い結果を残している。また過去の実技試験の問題等情報収集も引き続きおこなっている。

## Ⅱ－２．研究

**１．目標・計画**

これまでどおりアクリル絵具，油絵具，和紙を中心材としたミクスト・メディアでの表現，具体的には和紙や布をマチエール材として使用することでその凹凸が単なるマチエールとしてではなく，主題の中心的形態としての成立についての研究をおこない，年間2度以上の発表をおこなう。

**２．点検・評価**

中間報告でおこなった報告内容と同じであり，目標通り2件の研究発表をおこなった。
また所属する国画会では会員を務め，関西国展では委員を務め，それぞれの一般出品者の審査や研究発表のための運営を行った。

## Ⅱ－３．大学運営

**１．目標・計画**

積極的に各種委員会で活動し，大学運営を補助する。
大学院定員充足のための方策に協力する。

**２．点検・評価**

学校教育研究科入試委員会委員として，大学院説明会を運営する等，積極的に大学運営に参加している。
中間報告でも述べたように大学院定員充足のため知人，友人の研究者に本学大学院の募集要項を送付し，また複数の研究者に直接面談するなどし，学生の出願を依頼した。後期大学院選抜試験についても前期同様に知人，友人の研究者に依頼をおこない，前期，後期あわせて5名の出願があった。

## Ⅱ－4．附属学校・社会との連携，国際交流等

### 1．目標・計画

教育実践フィールド研究(大学院)，初等中等教科教育実践(学部)などの授業や附属学校園の研究会を通して附属学校との協力連携を強化する。
教育支援講師・アドバイザー等派遣事業などを通じて地域連携活動を強化していきたい。

### 2．点検・評価

附属小，中学校の研究会への参加と助言指導を通して附属学校との協力連携を強化した。
徳島近代美術館において行われたワークショップ「阿波踊りを描こう～踊り手をモデルにクロッキー～」の講師を務めた（6月2回，7月1回，教育支援講師・アドバイザー等派遣事業）。また鳴門市ウチノ海総合公園を育てる会委員を務め，8月には同公園において児童絵画教室の講師（ボランティア）も担った。ASAトライアングル交流圏推進協議会(鳴門市，東かがわ市，南あわじ市)主催の児童絵画コンクールの審査員，徳島県立近代美術館・徳島県立に十一世紀館主催チャレンジ徳島芸術祭展示部門審査員を勤めた。このように社会連携にも務めている。

## Ⅲ．本学への総合的貢献（特記事項）

中間報告で報告した内容とほぼ同じではあるが，後期，二次大学院選抜試験でも出願の依頼をおこない，そこからの紹介で4名の入学者を確保した。
教員採用試験の中の実技試験問題の分析をおこない，指導，助言にあたった。具体的例としては水彩画実技試験の対策として数多くの作品添削を行い，その中から本採用者を輩出している。